

# EU酪農の現状と見通し

平成29年12月12日（火）  
（独）農畜産業振興機構  
調査情報部 大内田一弘



写真 アイランドの放牧場にて

# 本資料の構成

1. EU酪農の概要
2. 主要な酪農政策
3. 生乳生産および牛乳乳製品需給の動向など
4. 今後の見通し
5. まとめ

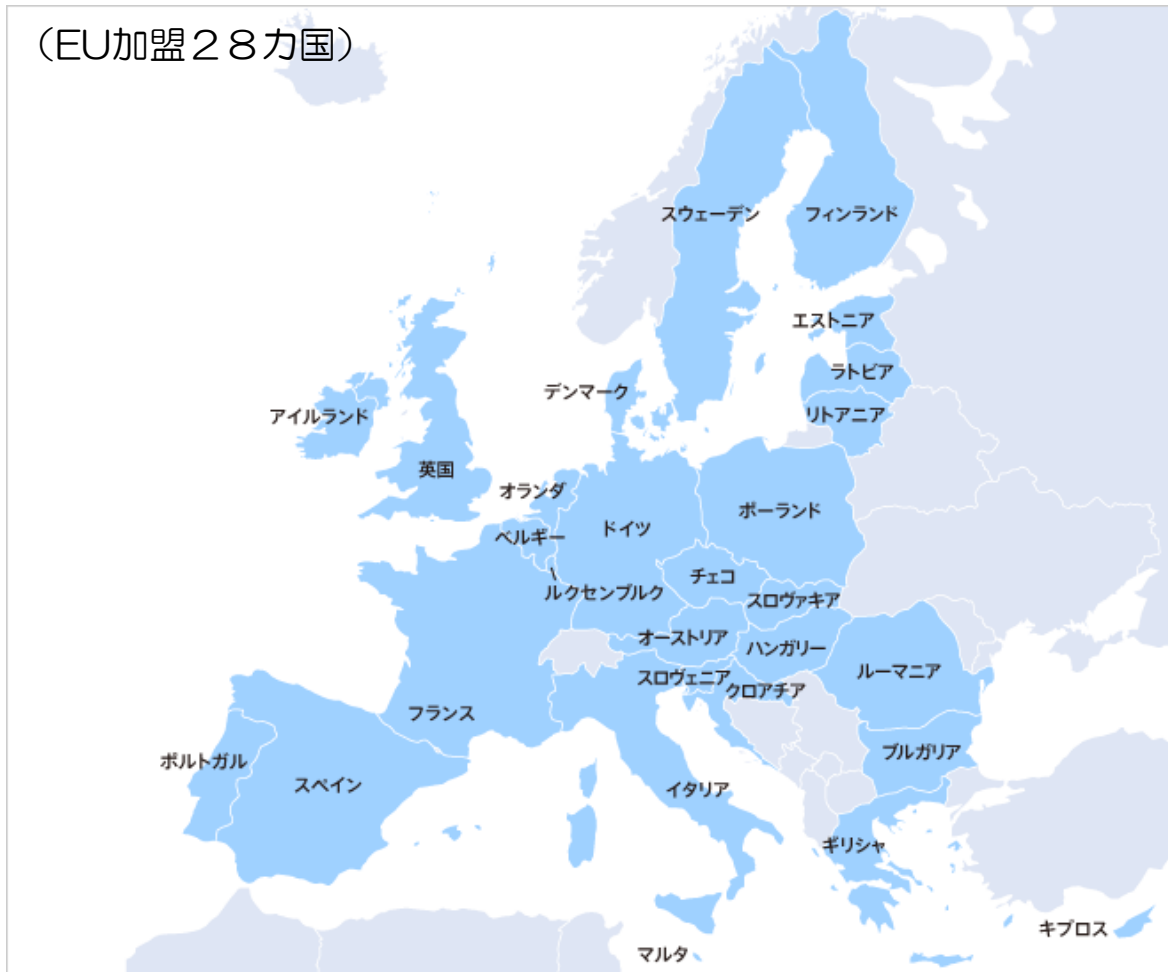
- ◇ この資料は、情報提供を目的とするものであり、取引・投資判断の基礎とすることを目的としていません。
- ◇ この資料の正確性の確認等は、各個人の判断でお願いします。
- ◇ 提供した情報の利用に関して、万一、不利益を被る事態が生じたとしても、ALICは一切の責任を負いません。

# 1 EU酪農の概要



# EUと酪農

(EU加盟28カ国)



さまざまな歴史や風土、経済事情を持つ28の加盟国で構成

※1952年、EUの前身となる欧州石炭鉄鋼共同体（ECSC）設立。2013年にクロアチアが加盟し、現在の28カ国に

人口：5億820万人（2015年）  
面積：4億3836万ha  
（日本の約11倍）

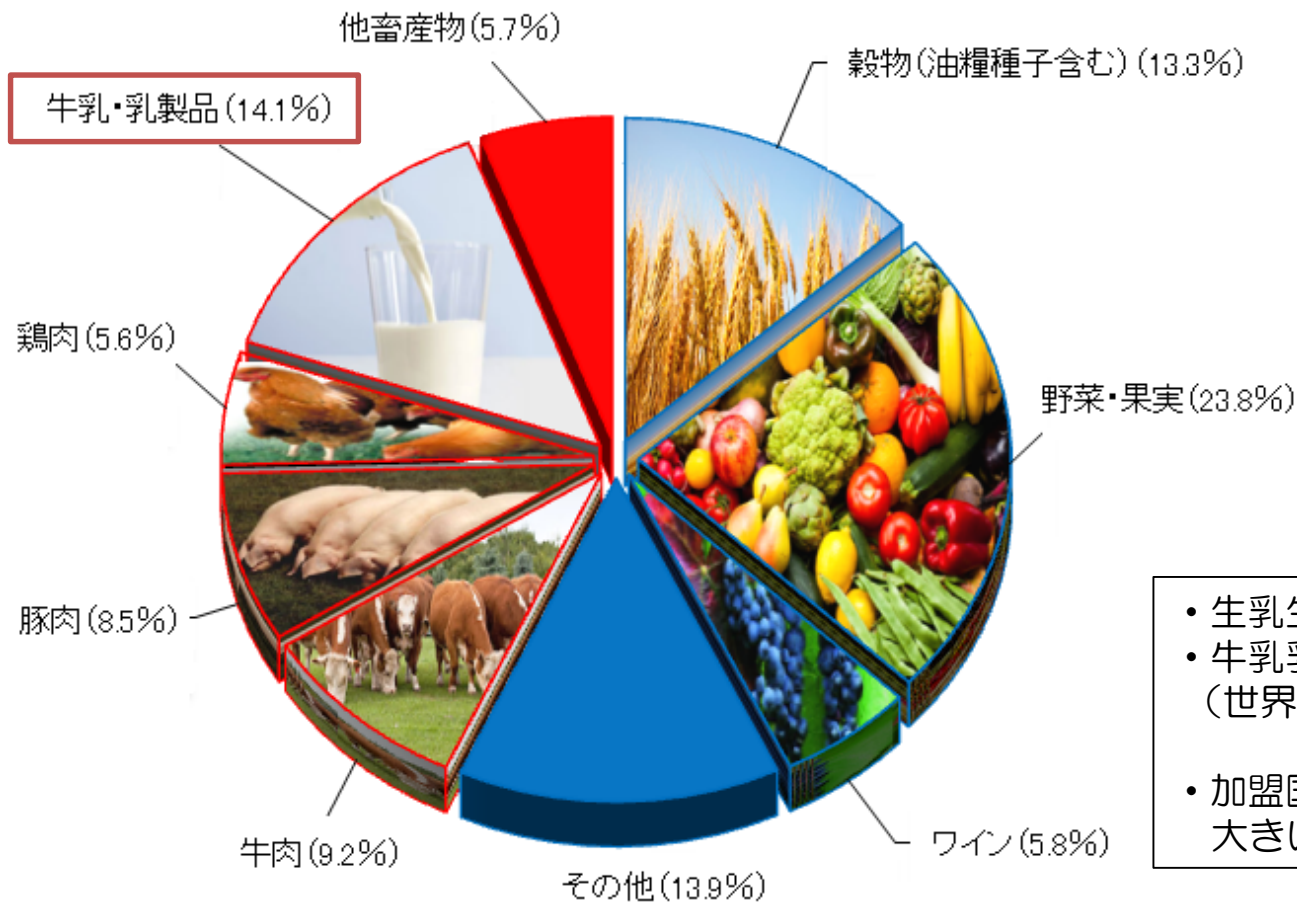
※政治・経済統合体  
※世界最大の単一市場

農用地面積：1億8551万ha  
（日本の約41倍）  
※面積全体の42%

※酪農経営は全28カ国で行われている



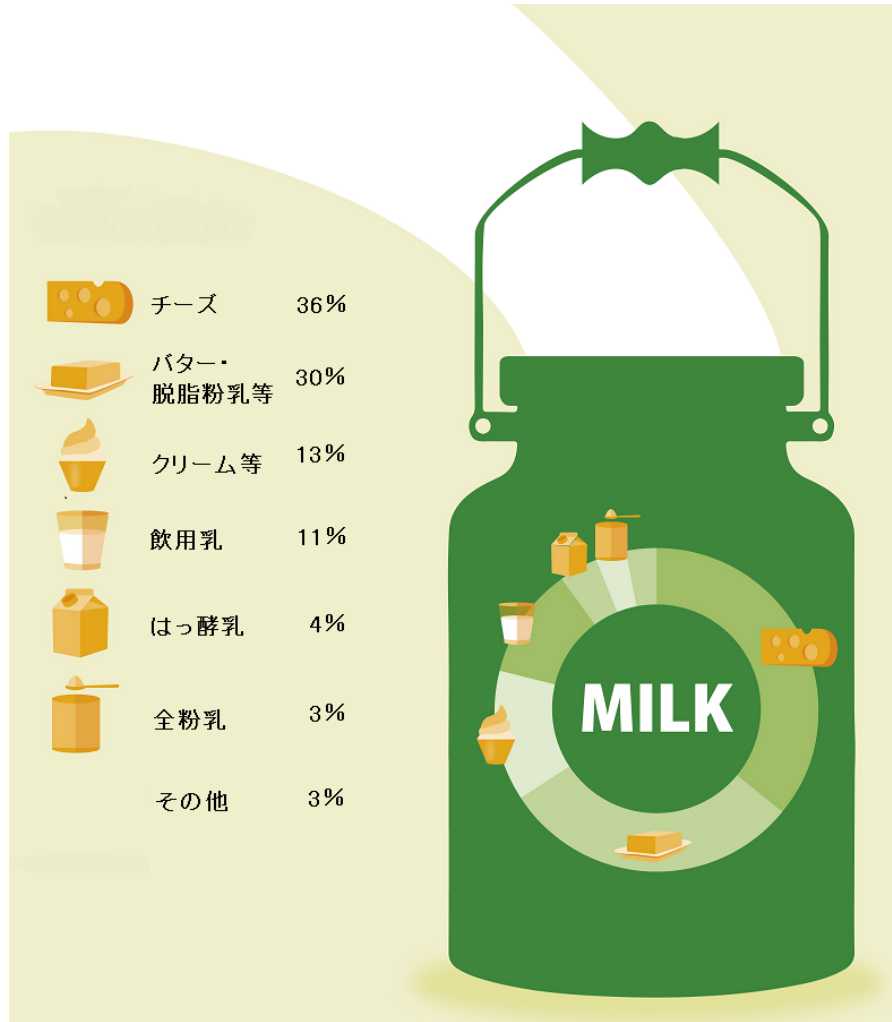
# 酪農の概要



- 生乳生産量：全世界の約2割
- 牛乳乳製品自給率：110%  
(世界のチーズ貿易量の約4割)
- 加盟国間で経営規模などの差は大きい

EU農業生産額の内訳 (2015年) (欧州委員会HP)

# 生乳の流通および取引形態



- 相対交渉による直接取引
- 需給を踏まえて価格を決定



## 2 主要な酪農政策

英国の牛乳販売ブース  
(広告には「私たちは生乳の適正価格  
を農家に保証します」という文言と  
農場の写真)



# 共通農業政策（CAP）の概要

- 共通農業政策（Common Agricultural Policy：CAP）  
：EUにおいて加盟国28カ国で共通して講じられている農業政策
- 欧州各国の保護主義的性格が強い農業政策を変えるため、共通市場の設立、生産増強を図るために域内調整が必要とし、1962年導入
- 世界市場におけるEU産農産物の価格競争力強化を支援するため、市場志向性を高めており、効率的な農業を推進
- 加盟国拡大や国際的な農業交渉対応などに応じて数度にわたり見直し
- 2013年、安定的な食料供給を確保しつつ、資源効率、気候変動、生物多様性といった環境問題への対応など大幅な見直しを実施
- 現在、それを踏まえた2014年～2020年の実施期間中

【第1の柱】 農業者の所得を保障するための「価格・所得政策」  
（直接支払いが中心）

【第2の柱】 国や地域の必要性に応じた「農村振興政策」  
（加盟国の裁量大）



# 生乳クォータ制度と廃止に向けた支援

※生乳クォータ（生産割当）制度とは、

30年以上にわたりEU酪農政策の中心として、域内の牛乳乳製品の需給調整と生乳の取引価格の安定を目的とし、加盟国ごとに生乳生産量の上限を定めていたもの

- 2008年の見直しにおいて、市場志向性を重視し、より自由な生乳生産を図ることを目的に、2015年3月31日をもって廃止することが決定



## 生産者の交渉力強化への取り組みを支援

- ミルクパッケージ（2012年）  
酪農家の交渉力強化による地位向上が目的。契約書の締結などによる公正な生乳取引を目指すもの
- 牛乳乳製品市場観測サイト（2014年）  
（MMO：Milk Market Observatory）  
市場の透明性の確保が目的。EUや世界の乳製品市場の動向、市場予測などのデータを提供。酪農・乳業関係者自らの的確な需給判断を支援するもの

# 主要な酪農政策①

※需給改善のための支援

## 介入買い入れ

卸売価格が、あらかじめ設定された公的買入価格を下回った場合、国の機関が、製造業者または取扱業者の申請に基づき同価格で買い入れるもの

対象：バター、脱脂粉乳                      対象期間：毎年3月1日～9月30日

公的買入価格    バター    : 100キログラム当たり221.75ユーロ (2万9715円)

脱脂粉乳 : 同169.80ユーロ (2万2753円)    ※1€=134円

限度数量：バター5万トン、脱脂粉乳10万9000トン

## 民間在庫補助 (PSA)

大幅な価格の下落時など欧州委員会が必要と認めた場合、一定量を一定期間、在庫として市場から隔離するため保管する民間部門に対し、保管経費の補助を行うもの

対象：バター、脱脂粉乳、チーズ

※ 直近では、ロシアが禁輸措置を講じた翌月の2014年9月から、バターとチーズは2016年9月まで、脱脂粉乳は2017年2月まで、上限数量の変更などを行いながら実施

## 脱脂粉乳公的在庫の売渡入札実績

回数	入札日	売渡数量 (トン)	売渡最低 価格	応札数量 (トン)	応札最低 価格	応札最高 価格	落札数量 (トン)
1	2016.12.13	22,000	215.10	19,707.0	17.51	220.00	40
2	2017.01.03	21,960	-	11,914.0	165.10	196.10	0
3	2017.01.17	21,960	-	7,490.0	155.00	190.00	0
4	2017.02.07	21,960	-	1,796.0	155.00	185.00	0
5	2017.02.21	21,960	-	1,386.0	140.00	180.39	0
6	2017.03.07	21,960	-	136.0	165.00	166.87	0
7	2017.03.21	21,960	-	336.0	140.00	166.87	0
8	2017.04.18	21,960	-	240.0	138.00	163.26	0
9	2017.05.16	21,960	-	240.0	138.00	163.41	0
10	2017.06.20	21,960	185.00	1,340.0	138.00	185.00	100
11	2017.07.18	21,860	-	120.0	168.01	175.00	0
12	2017.09.19	21,860	-	40.0	159.34	159.34	0
13	2017.10.17	21,860	144.05	1,790.0	120.10	144.05	40
14	2017.11.21	21,820	139.02	33,195.2	80.00	139.02	40

資料：欧州委員会の公表資料を基に機構作成

注：各価格は、脱脂粉乳100キログラム当たりのユーロ建。

# 主要な酪農政策②

## 環境関連法令の遵守（クロスコンプライアンス）

直接支払い（農業者の所得保障）の受給要件。有機農業など、クロスコンプライアンスで定める基準よりも高水準の環境対策に取り組む農業経営者に対しては、環境支払いという補助金が加算

→ 近年、環境問題への意識の高まりから、環境支払いの支出額は増加傾向。環境対策を推し進めるとともに、農業者の環境への意欲ある取り組みを支援





# 主要な酪農政策③

## ● 環境関連法令

### 硝酸塩指令（1991年）

- 1960年代から70年代にかけて、家畜の多頭飼育による環境問題が発生
- 水質汚染への対応として
  - ①窒素の総投入量について土壌その他からの供給量も考慮して適切な肥料の施用を行うこと
  - ②ふん尿による窒素が1ヘクタール当たり170キログラム以下となる家畜の飼養密度にすることなど同指令に基づき加盟国が規定

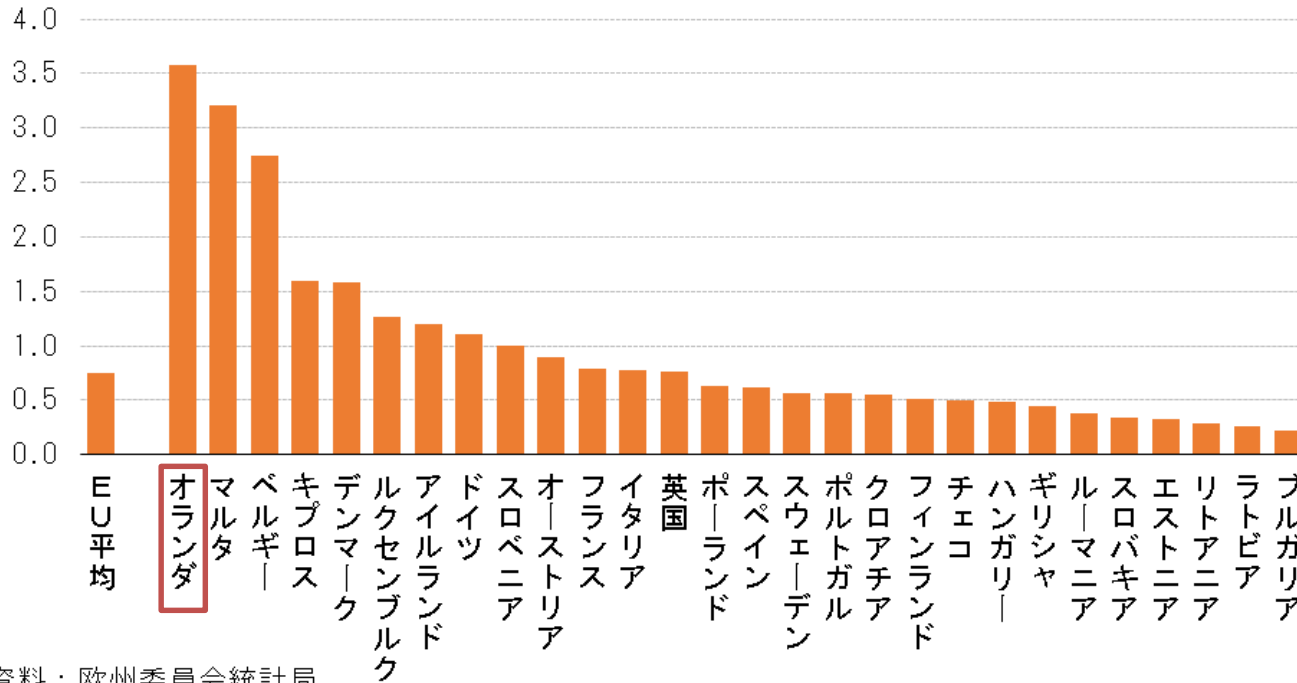
## ● 緊急支援策

### 生乳出荷削減奨励事業（2016年）

- 総額5億ユーロ（670億円）の緊急支援策の一つ（2016年7月）
- 2016年10月～2017年1月の間、供給過多にある生乳の需給を引き締め、低迷する生乳取引価格を回復させるため、減産した生乳1キログラム当たり14セント（19円）の奨励金を交付するもの。奨励金単価は加盟国独自で加算が可能。結果、80万トン強減産

# 総家畜密度（1ヘクタール当たりの家畜数）（2013年）

（単位：家畜単位(LU)/ヘクタール）



資料：欧州委員会統計局

注：家畜単位（LU）とは、家畜の飼養密度を表す指標として用いられる係数で、2歳以上の牛：1.0LU、6ヵ月以上2歳未満の牛：0.6LU、山羊・羊：0.15LUなどとなっている。

- オランダでは環境対策として「リン酸塩排出削減計画」が実施（2017年）  
→ 酪農部門では、頭数削減計画（2015年7月2日時点までの飼養頭数削減）、  
営農中止計画、飼料削減計画により年内8200トンのリン酸塩の削減目標

# 地理的表示（GI）制度について

制度名称・ロゴマーク		要件(認定基準)の概要
原産地呼称保護 (PDO: Protected Designation of Origin)		製品と産地の結び付きが重視され、生産工程(生産、加工、調製)のすべてが一定の地理的領域内で行われる。
地理的表示保護 (PGI: Protected Geographical Indication)		生産工程(生産、加工、調製)の少なくとも1つが地理的領域内で行われる。



PGIロゴマークの入った  
オランダのチーズ

- GI制度は、地域特有の伝統的生産方法や生産地の特性によって高い品質や評価を獲得しているものについて、地理的表示(知的財産)を保護し、生産者と消費者の利益を守るもの
- EUでは、すでに1400以上の農林水産物・食品が保護対象。世界的に知名度の高いフランスのカマンベール・ド・ノルマンディやイタリアのパルミジャーノ・レッジャーノなど

- ⇒ GI制度の活用は、有利販売につながるだけでなく、生産工程が厳しく管理されることから消費者の信頼も高い。地域経済の活性化にも
- ⇒ EUは、自由貿易協定(FTA)などにGI保護の条項を含めて交渉

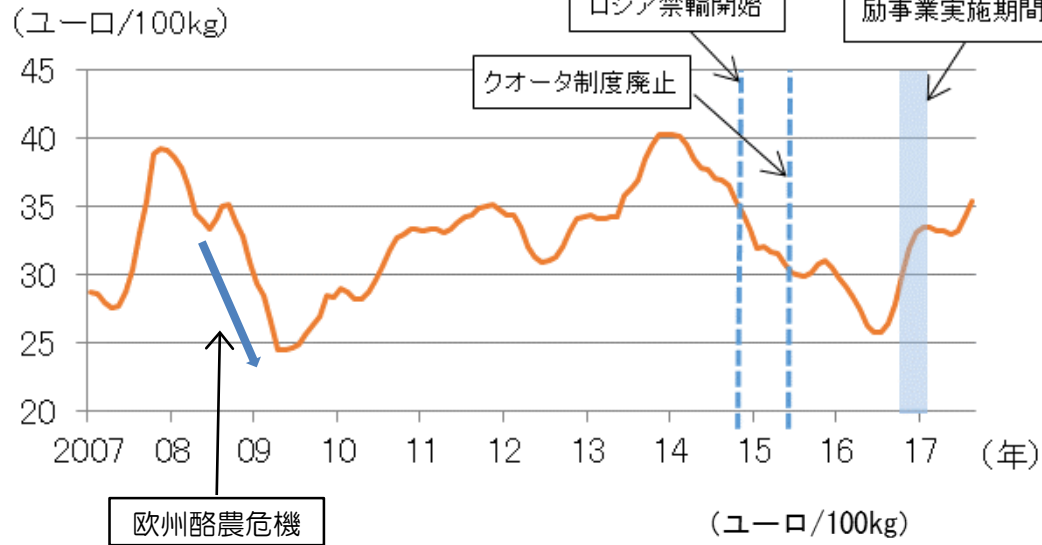
### 3 生乳生産および牛乳乳製品 需給の動向など



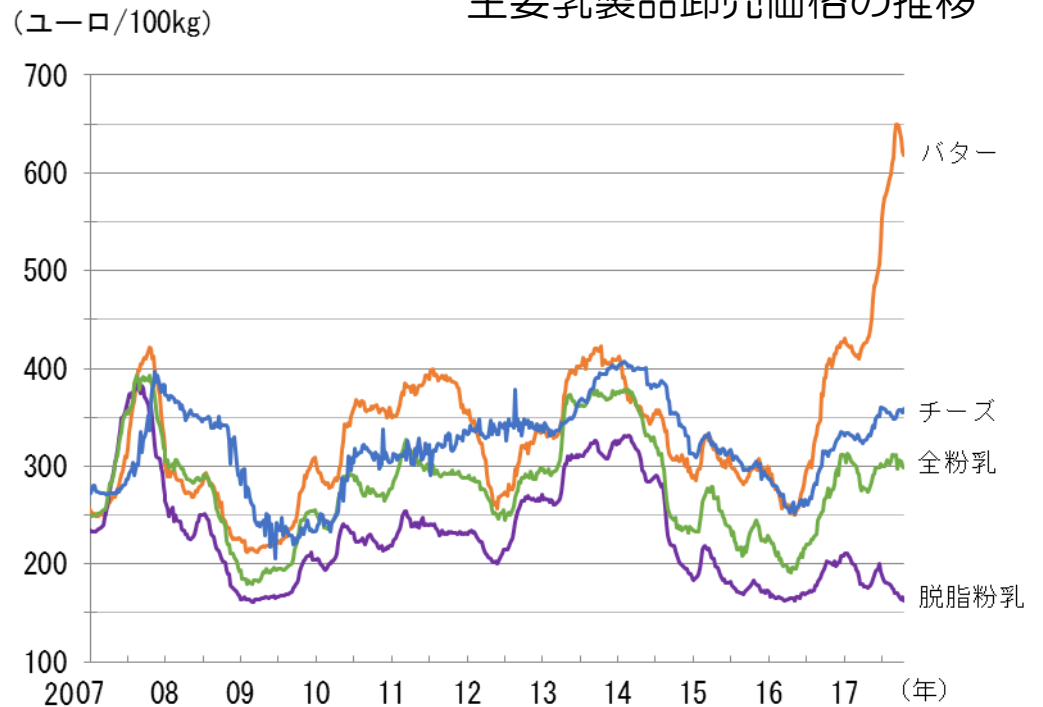
オランダのチーズ販売の様子  
(酪農家併設の直売所)



# 平均生乳取引価格の推移



# 主要乳製品卸売価格の推移



資料：欧州委員会「EU Milk Market Observatory」

	単位	2005年	2007年	2010年	2013年	2010年比 (増減率)
酪農家戸数	千戸	2,821	2,536	1,742	1,485	▲14.8%

経営の合理化、  
大規模化による  
経営力強化

	単位	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	前年比 (増減率)
経産牛飼養頭数	千頭	23,053	23,193	23,468	23,559	23,595	23,507	▲0.4%
生乳出荷量	千トン	139,242	140,025	141,584	148,418	151,720	152,393	0.4%
経産牛1頭当たり乳量	キログラム	6,464	6,496	6,489	6,737	6,861	6,836	▲0.4%

注：経産牛飼養頭数は、各年12月時点。

- ・生乳クオータ制度廃止を見据え、増産が進む
- ・酪農家1戸当たりの飼養頭数規模拡大、経産牛1頭当たりの乳量増加なども進展

## 国別経産牛飼養頭数

(単位：千頭)

	2016年	前年比 (増減率)	シェア
ドイツ	4,218	▲ 1.6%	17.9%
フランス	3,630	▲ 0.8%	15.4%
ポーランド	2,130	▲ 0.2%	9.1%
イタリア	2,060	0.2%	8.8%
英国	1,898	▲ 1.0%	8.1%
オランダ	1,794	4.5%	7.6%
アイルランド	1,295	4.5%	5.5%
ルーマニア	1,193	0.2%	5.1%
スペイン	819	▲ 3.0%	3.5%
その他	4,470	▲ 1.7%	19.0%
EU合計	23,507	▲ 0.4%	100.0%

注：12月時点。

- 経産牛飼養頭数、生乳出荷量ともに、他の主要国で経産牛の淘汰などが進展する中、オランダ、アイルランドは増加
- 両国は、酪農を基幹かつ成長産業とし、生乳クォータ制度の廃止を待ち望んでいた

## 国別生乳出荷量

(単位：千トン)

	2016年	前年比 (増減率)	シェア
ドイツ	31,973	0.3%	21.0%
フランス	24,717	▲ 2.6%	16.2%
英国	14,543	▲ 4.3%	9.5%
オランダ	14,324	7.5%	9.4%
ポーランド	11,130	2.4%	7.3%
イタリア	10,773	1.2%	7.1%
スペイン	6,864	2.1%	4.5%
アイルランド	6,852	4.0%	4.5%
その他	31,218	0.3%	20.5%
EU合計	152,393	0.4%	100.0%

## 国別生乳出荷量（2017年1～9月）

（単位：千トン）

	2017年 1～9月	前年同期比 (増減率)
ドイツ	24,073	▲ 1.8%
フランス	18,476	▲ 1.9%
英国	11,133	0.3%
オランダ	10,777	▲ 0.7%
ポーランド	8,848	4.6%
イタリア	8,587	4.8%
アイルランド	6,282	8.2%
スペイン	5,290	1.6%
その他	24,183	1.3%
EU合計	117,648	0.7%

天候不順など。  
8月以降は回復

リン酸塩排出削減計画の影響



資料：欧州委員会「Eurostat」



## チーズ需給表

	単位	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	前年比
								(増減率)
生産量	千トン	9,391	9,605	9,367	9,559	9,888	10,028	1.4%
輸入量		74	77	75	77	61	71	15.0%
輸出量		672	768	786	721	719	800	11.3%
消費量		8,793	8,914	8,655	8,870	9,201	9,359	1.7%
1人当たり消費量	キログラム	16.9	17.1	16.5	16.9	17.5	17.8	1.5%

資料: 欧州委員会「Short-term Outlook for EU agricultural markets in 2017 and 2018」

- EU域内外から需要増加傾向
- 付加価値製品として利益率が高く、生乳の仕向け割合が増加中
- 過去、ロシアが最大の輸出先であり、ロシアの禁輸措置の影響を最も受けたが、2016年の輸出量は過去最高に
- 主な輸出先は、米国、日本、スイス、サウジアラビア、韓国

## バター需給表

	単位	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	前年比
								(増減率)
生産量	千トン	2,102	2,167	2,127	2,234	2,334	2,380	1.9%
輸入量		32	33	21	25	3	3	13.9%
輸出量		124	124	116	135	172	206	20.1%
消費量		1,981	2,056	2,037	2,095	2,155	2,186	1.4%
1人当たり消費量	キログラム	3.9	4.1	4.0	4.1	4.2	4.3	1.1%
期末在庫量	千トン	28	25	11	20	51	25	▲51.7%
(民間在庫量)		(28)	(25)	(11)	(20)	(51)	(25)	▲51.7%
(公的在庫量)		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	-

資料: 欧州委員会「Short-term Outlook for EU agricultural markets in 2017 and 2018」

- 世界的な乳脂肪に対する需要の高まり。EU域内の消費量も増加中
- 全体の4割を生産するドイツ、フランスがともに生乳生産が伸びず、バター仕向けが増えず、需給を圧迫。バター価格の上昇の要因に
- 主な輸出先は、米国、サウジアラビア、エジプト、シンガポール、モロッコ

## 脱脂粉乳需給表

	単位	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	前年比
								(増減率)
生産量	千トン	1,096	1,109	1,108	1,457	1,538	1,561	1.5%
輸入量		0	2	5	2	3	4	7.5%
輸出量		515	520	407	648	692	575	▲16.9%
消費量		689	677	697	721	741	768	3.7%
期末在庫量		50	0	0	16	62	417	572.5%
(民間在庫量)		(0)	(0)	(0)	(16)	(33)	(66)	100.3%
(公的在庫量)		(50)	(0)	(0)	(0)	(29)	(351)	1107.4%

資料：欧州委員会「Short-term Outlook for EU agricultural markets in 2017 and 2018」

- 生産量が増加も、需要はバターなどと比べ低迷。在庫が積み上がっている
- 主な輸出先は、アルジェリア、中国、インドネシア、エジプト、サウジアラビア
- 公的在庫の売渡入札を実施中

### 全粉乳需給表

	単位	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	前年比 (増減率)
生産量	千トン	682	651	723	756	717	730	1.8%
輸入量		2	3	3	1	4	6	44.1%
輸出量		388	386	374	390	400	381	▲4.7%
消費量		296	267	352	367	321	354	10.4%

資料: 欧州委員会「Short-term Outlook for EU agricultural markets in 2017 and 2018」

- 国際価格を上回っており、輸出量が減少

### 飲用乳需給表

	単位	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	前年比 (増減率)
生産量	千トン	31,853	31,751	31,767	31,404	31,348	30,850	▲1.6%
輸入量		48	46	33	19	12	14	18.9%
輸出量		436	579	635	773	908	1,120	23.4%

資料: 欧州委員会「Short-term Outlook for EU agricultural markets in 2017 and 2018」

- 生産量は消費量の減少に伴い減少傾向。輸出は需要の高い中国向けが増加

# 世界の乳業メーカー 売上高 上位20社（2016年）



順位	企業名		本社所在国	売上高 (10億円)
	英語表記	日本語表記		
1	Nestlé	ネスレ	スイス	2,736
2	Danone	ダノン	フランス	2,086
3	Lactalis	ラクタリス	フランス	2,052
4	Dairy Farmers of America	デイリーファーマーズオブアメリカ	米国	1,539
5	FrieslandCampina	フリースランドカンピーナ	オランダ	1,402
6	Fonterra	フォンテラ	ニュージーランド	1,368
7	Arla Foods	アーラフーズ	デンマーク・スウェーデン	1,129
8	Yili	伊利集団	中国	1,026
9	Saputo	サプート	カナダ	958
10	Mengniu	蒙牛乳業	中国	935
11	Dean Foods	ディーンフーズ	米国	844
12	Unilever	ユニリーバ	オランダ・英国	787
13	Kraft Heinz	クラフト・ハインツ	米国	730
14	Meiji	明治	日本	695
15	DMK	DMK	ドイツ	638
16	Sodiaal	ソディアール	フランス	604
17	Schreiber Foods	シュレイバーフーズ	米国	559
18	Savencia	サベンシア	フランス	559
19	Müller	ミューラー	ドイツ	559
20	Agropur	アグロプール	カナダ	510

オーガニック部門強化のため、米国大手のオーガニック食品製造・販売会社ホワイトウェーブ・フーズを買収

フルーツジュースなどを主力とするデンマークの会社（Rynkeby Foods）をドイツ（Eckes-Graniniグループ）に売却

- ・競争力強化のための規模拡大、利益率の改善を目的とした戦略的な合併・買収などが活発
- ・オーガニック市場の成長をにらんだ合併・買収も増加傾向
- ・今後は、量的な戦略よりも、商品価値に重点を置いた戦略にシフトしていく

資料：ラボバンク

注：売上高は牛乳乳製品の販売に係るもののみを対象としており、企業統合（合併・買収）は2017年1月1日～6月30日までに完了したもので対象。下線の値は見込額。



## 4 今後の見通し

オランダのチーズ販売の様子  
(ファーマーズマーケット)



# 今後の見通し（欧州委員会）

## 生乳

2016年の後半以降、生乳取引価格は回復

2017年生乳出荷量見込み：前年比0.7%増

2018年            //                            :    //    1.4%増

## 乳製品

増産部分の多くが、高需要、高収益のEU域内チーズ向け

38万トン弱まで積み上がった脱脂粉乳の公的在庫が懸念

※欧州委員会の短期見通し（上段：生産量、下段：輸出量）

チーズ    : 2017年同2.1%増、2018年同1.9%増

                 //        6.0%増、                    //        7.0%増

バター    :    //        2.6%減、                    //        2.8%増

                 //        12.0%減、                    //        5.0%減

脱脂粉乳 :    //        4.8%減、                    //        2.0%増

                 //        35.0%増、                    //        6.0%増

# 次期CAPの方向性

2021年以降の次期CAPの方向性（11/29欧州委員会）

- 「簡素化」と「合理化」がキーワード
- パブリックコメントには32万超の意見
- 目標は、簡素化された規則と柔軟なアプローチによって、政府の支援が生産者の結果につながるようにすること
- 持続可能な発展につながるよう、予算の用途などについて、加盟国の裁量を拡大することが改革の大きなポイント
- 焦点を農産物から生産者へ。EUの生産者は、多様性に富み、国・地域によってその態様が大きく異なることから、支援の仕方について、事務負担の大きい画一的かつ中央集権的な対応から加盟国・地域レベルの対応に変更することで、よりの確な支援が可能
- その他、最新テクノロジーの利用推進、若者の就農支援など

⇒ 2018年5月までに、2021年から2027年までの財政枠組みを提案予定。2019年5月の成立が目標

# 日EU・EPAへの期待

- 日本とEUは、日EU・EPA（経済連携協定）について、2017年7月6日に大枠合意を発表、12月8日に交渉妥結
- EU側の主たる関心事項の一つは、農産品（特に乳製品）の市場アクセスの改善
- EUの酪農関係団体などは、今回の結果は輸出拡大のチャンスであり、歓迎すべきものである旨のコメントを発信
- 2017年9月には、欧州委員会のマルムストローム貿易担当欧州委員が講演の中で、日本のチーズ消費量が増加していることに触れ、EU産チーズの輸出機会の拡大はそこにあるとコメント
- 相互のGI制度を認め合うとされたことが、伝統的なチーズ生産を有するEUにとって重要であることにも言及

## 5 まとめ



オランダのチーズ販売の様子  
(チーズメーカー併設の直売所)



## (まとめ) EU酪農の現状と見通し

- EU酪農は、世界市場における価格競争力強化に向けて、市場志向性を高めたCAPの下、効率的な生産を推進
- ロシアの禁輸や中国の需要停滞などの中、酪農家は経営力強化のための経営の合理化・大規模化、乳業メーカーは収益確保のための合併・買収などを進める
- 欧州委員会は、必要に応じた支援措置を実施
- 官民一体となった需給改善への取り組みを実施
- 脱脂粉乳の公的在庫の動きも含めた今後の需給動向、次期CAPの動向などに注目

# ご清聴ありがとうございました

『畜産の情報』 2017年12月号に「EUにおける酪農、牛乳乳製品の需給動向～官民一体となった需給改善の取り組み～」の全文を掲載しております。是非ご覧ください。（<https://www.alic.go.jp>）

## ※ メールマガジンのご案内

独立行政法人農畜産業振興機構は、情報誌「畜産の情報」を毎月発行し、ホームページでも提供しているほか、メールマガジンにより、毎月2回（5日、25日）、最新の情報を配信しています。

配信を希望される方は、機構ホームページ（<https://www.alic.go.jp>）右の「メールマガジン」ボタンからご登録ください。

